

表題	クリの超低樹高化と省力的せん定法	機関	農業研究センター 果樹研究所
<p><b>概要：</b> クリ栽培の場面で収量、品質を低下させずにせん定作業を省力化するための整枝法並びにせん定方法としては、<u>超低樹高整枝法</u>並びに電動ハサミや間引き主体のせん定方法が有効である。</p>			

## 研究のねらい

クリの大果・安定生産のためには、せん定が不可欠であるが、慣行のせん定は樹高が高いため効率が劣り、しかも高所での作業のため危険性も高い。高齢・女性化が進む今日、これに替わる整枝法やせん定法が求められている。

そこで、生産性が低下せずに作業効率が良く、危険性の少ない超低樹高整枝法（せん定作業高2～2.5m）並びにせん定用具等を活用したせん定手法を開発し、せん定作業の省力化を図る。

## 研究の成果

1. 超低樹高樹は慣行樹に比べ樹高で79%、樹冠面積で68%とコンパクトな樹となった。
2. 超低樹高樹は、樹冠面積1㎡当たりの収量は20%程度劣ったが、大果で品質は向上した。せん定時間は慣行区に比べて16%程度省力化でき、作業の危険性もほとんどなくなる。
3. 電動ハサミを用いたせん定方法は、慣行の細密せん定に比べ、せん定時間が23%程度省力化できる。
4. 鋸引き主体によるせん定方法（混んでいる部位の2～3年生側枝部分を鋸引きする方法）は、3L以上果の率は慣行に比べ、24%程度少なくなるが2L以上果率では大差がなく、せん定時間は63%と大幅な省力化ができる。
5. 以上のことにより、超低樹高整枝や電動ハサミ並びに鋸引き主体のせん定方法は収量や品質面で慣行の細密せん定に比べ大きく劣ることはなく、せん定時間を16～63%短縮することができ、せん定の省力化としては有効な方法と判断される。

## 普及上の留意点

1. 2.5m程度の超低樹高樹に改造する場合、2年程度にかけて改造する。
2. 改造後は、側枝の更新を頻繁に行い、再び樹高が高ならないように留意する。
3. 栽培規模の大きい農家では、鋸引き主体のせん定方法がせん定の省力化技術として有効である。

表 1 整枝法の違いと樹体生育、収量・1果重

区 分	樹 体 生 育			収 量 ・ 1 果 重 ( 5 力 年 平 均 )			
	幹周	樹高	樹冠面積	着果数	1 樹収量	m <sup>2</sup> 当り収量	1 果重
	cm %	m %	m <sup>2</sup> %	個 %	kg %	g %	g %
超低樹高樹	187.5(106)	4.2( 79)	43.6( 69)	400( 70)	18.2( 74)	339( 81)	26.8(107)
慣行樹	176.0(100)	5.3(100)	63.6(100)	571(100)	24.5(100)	416(100)	25.0(100)

注 )( ) は慣行樹に対する比率

表 2 整枝法の違いとせん定時間( 5 力年平均)

区 分	樹冠 1 m <sup>2</sup> 当り	10 a 当り
超低樹高樹	50.5秒( 84%)	11時間13分
慣行樹	60.4" (100 )	13" 25"

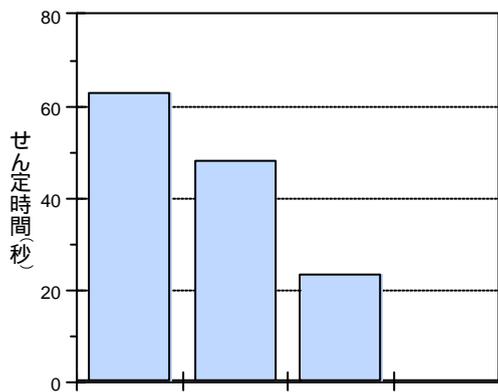


図 1 樹冠 1 m<sup>2</sup>当りのせん定時間

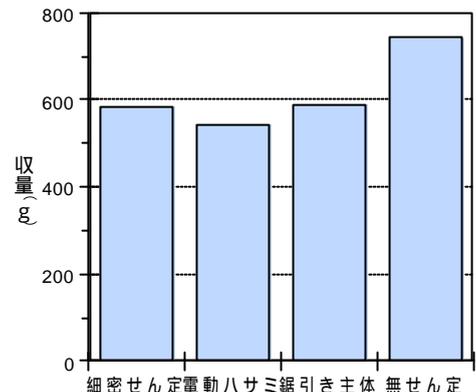


図 2 樹冠 1 m<sup>2</sup>当り収量

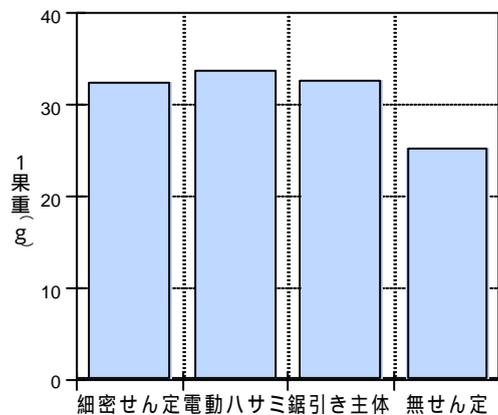


図 3 せん定方法の違いと果実重

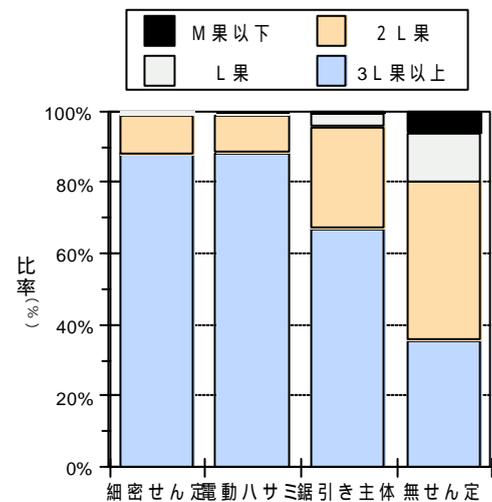


図 4 階級別比率